

Ryuichi Sakamoto Playing The Piano 2009 Tour



ryuichi sakamoto



Out
Of
noise

Catch!

the entertainment

イベント・ライブ・演劇に映画、
CDリリースから書評に至るまで、
骨太 entertainment を丸飲み!

LIVE

3.22
(Sun)

大切なものって？ 過去や今や未来って？ 知りたいんなら、自分で触れていこう。

Yellow Magic Orchestra名義でのライブアルバムをこのあいだの師走に発表したかと思うと、続いてソロとしては5年振りとなるアルバム「out of noise」を、と俄然ワーカホリックな教授。先のライブ盤は4枚組+Tシャツという仕様で、今回はフルアートワークパッケージとパッケージレスという二形態でのリリースと、そこに感じられるのは、「モノ」への比重、だったりする。

音楽産業を激変させているダウンロード文化や、大きく見たときのネット社会、そういうものへのアンチとしての行為ではなく、シンプルに「手触りのあるものこそ大事」という意識。その対極にあるかのよう

実は異口同音でさえある「目に見えないものこそ大切」という部分に目をやると、つまりそれって音楽そのものとなる。そう、「生」(なま/せい)こそが、きっと伝えたいこと。…と途中から突っ走った感もあるけれど、きっとそういうことなんだろうな、と光と闇が戯れる坂本龍一の音楽に漂いながら感じたのだ。

そして同じタイミングで、教授の初の自伝も発売される(2/27発売、新潮社刊)。タイトルは「音楽は自由にする」。うーん、なんてこの原稿の落としどころとドンピシャなのでしょう!

(中谷琢弥)

- 「Ryuichi Sakamoto Playing The Piano 2009 Tour」
- 3.22 (Sun)
- OPEN 17:00~ START 18:00~
- 前売り8400円 ※学生シート5000円
- 京都府立府民ホールALTI
- 京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1
- ☎075-441-1414
- <http://www.alti.org/>
- オフィシャルサイト <http://www.skmt09.com/>

- out of noise/坂本龍一
- 3.4発売
- commons フルアートワークパッケージCD :4500円
- RZCM-46128/パッケージレスCD :1980円 RZCM-46129

たそがれ木屋町の縮図的エリア…ともいえるのが、今号の特集でピックアップされている、御池〜三条の間じゃないだろうか？

なんというか、木屋町というストリートそのものが、黄昏時からの街であることは言わずもがな。それはそれとして、御池〜三条(というよりも龍馬通から上は先斗町が無いことと、立誠小学校の周辺区域から外れていることと、高度成長期(昭和が昭和な「パツチギ」の時代)に独特な店というかビルというかが、川床を持つ老舗を虫歯のように浸食しながらニョキニョキとでき、これまた高瀬川を挟んで河原町との間にもいっぱい、雑居から巨大なものまでビルがニョキニョキとおたつたって、京都の昭和的新しい風俗を一手に引き受けたのがこのエリアである。

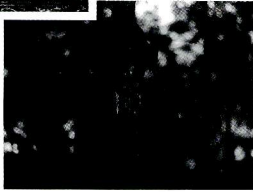
その時代からバブル期(昭和末〜平成初期)までに形成された街の風景が、まんま21世紀になっても風化することなく現存し、かっぴい感じで店の新陳代謝が行われていることで、江戸末期(維新の時代ね!)から平成20年代に暖簾をあげた店が仲良く並んで(といいうかすし詰めになっ)てる。

祇園とも、木屋町とも、河原町とも言われることもなく、繁華街としての認識もあまりなく…。このエリアは今の時代感覚ではそれがお洒落ととらえられている、ちよつと外れた場所なだけけれど、決して街じゃないというわけではない…という距離感を京都という箱庭のなかで、連綿と続けてきた場所なんじゃないだろうか? そんな気がするの、千本や大宮・西院、三

【第17回】
京都のヘソのような場所。
繁華と雅の谷間に顔を出すタナトス…。
だからこそその自由と、
オモシロさがそこにはある。

街場の演算	保伊戸宵 (ほいとよい)
	肩の力を抜いて、自由に語ろう、 京の街と付き合うということ。

HANDSOMEBOY TECHNIQUE



インディポップもクラブも飲み込んだ、スマイル&ハッピーな音楽が始まる！

'05年に京都を拠点とするレーベル<SECOND ROYAL>からリリースされたHANDSOMEBOY TECHNIQUEの1stアルバムは、世界リリースを展開することなど別段なかったものの、国内よりもむしろ海外で熱烈に歓迎された。特にUKやスウェーデンでは雑誌やラジオなどで特集が組まれ、'06年にはスウェーデンツアーも敢行、同国最大級のフェスにも出演という反響を巻き起こした。そこから4年、待望の2ndアルバムが到着した。

カナダやアイルランド、スウェーデンからのヴォーカルをフィーチャリングすることでポップさを増す一方、今回も彼特有のサンプリング・センスは爆発！この"ポップ"と"サンプリング・ミュージック"という2つこそHBTの魅力であり真骨頂で、それを支えることん高い音楽IQがあったからこそ、海外のリリスナーが素直に飛びついたのだ。次は日本の音楽ファンの番だよ、遅れないようにね！
(中谷琢弥)

- 「TERRESTRIAL TONE CLUSTER/HANDSOMEBOY TECHNIQUE」■ 発売中
- SECOND ROYAL RECORDS 2625円 SRCD-019
- SECOND ROYAL - HANDSOMEBOY TECHNIQUE『TERRESTRIAL TONE CLUSTER』RELEASE TOUR!! -
- 3.13 (Fri) ■ OPEN / START 22:00~
- METRO 京都市左京区川端丸太町下ル下提町46 恵美須ビルB1F ☎075-752-4765 <http://www.metro.ne.jp>

RELEASE
発売中

ESSENTIAL BEAT 01 / DJ SANCON



京都ヒップホップ・シーンの顔役、DJ SANCON が遂に音源リリース！

今年で14周年を迎える京都随一のマンモス・イベント「ESSENTIAL (現在は世界-WORLD-をホームに開催中)」を率いるDJ SANCONがミニアルバムをドロップ！以前には渋谷HARLEMの10周年記念アルバムにm-floのVERVALとFull Of Harmonyをフィートした一曲「PLAY DA SONGS」でも話題を振りまいただけに、このリリースはファンならずとも待ち遠しかったところ。

うことに重きを置いた彼のクラブプレイのイメージからだとも意外にも思える、玄人仕様とも言えるほどのシブいヒップホップ・トラックが並んでいる。すでに盟友であるライムスターのDJ JINやGAGLEのDJ Mu-Rからコメントが寄せられていることから、その内容が伺えるはず。なお、次回「ESSENTIAL」は祝前日の3/19(木)に世界-WORLD-で開催！盤も現場も、どっちもチェックして楽しむべし！
(中谷琢弥)

今作では、「いかにフロアをロックするか」とい

- 「ESSENTIAL BEAT 01/DJ SANCON」
- 発売中
- Shinryo.On 1680円 SHO-004

RELEASE
発売中

保伊戸尚(ほいと・よし) / 正月からの近況：エディブイスのカタログの仕事で、ロンドンのクラブとラッシュンフレンチタイピとスタールカウシルについての考察に追われる。そんな忙しい中で、カンフルとなったのがテッド・パールのコンサートと伊越山の書バウウォーマンス@新風館。そうそう、近代美術館の上野リ子展も凄いいい試みだったな。

条会商店会にしても繁華街としての役目が一旦終わった場所にもう一度スポットが当たっているというか、街場のポテンシャルの再評価(きつと河原町もそんな時が来るのだから)であるのだが、この木屋町三条上ルエリアは、繁華(ハレや緑日的空間)ではなく、陽の当たらないところというか一種のエアポケット的な、向こうとこっちを行き来する口のような場所、タナトスを感じるからだろうか？

なんて書きながらなんなのだが、この一角は不思議なことに神仏に関する宗教施設はない。しかし面白いことに河原町カトリック教会はある。そしてロイヤルホテル&スパもあれば、ラブホもある。文教地区ではないのだから、まあ行政的には問題はないのだから。だからこそハレや緑日的空間と、セックスという死へ向かう行為は絶妙な距離感を持った場所を必要とするのである。

そんなことを考えたのは、「キヤラメルママ」がこのエリアに移転したことで、「マザー」ができたことと、マメちゃんのお店が無くなったことと、「タバーン」へは未だに先輩と一緒にいけないことと、「中川酒店」でいつも播ヒロシやDJのメツツカ君がいた「フィッシュ&チップス」って昔あったよなと思うことと、「ノルマンディー」で「ランスパート2」のことを思い出したことと、それぞれが自転車にのって「南国」に入っていくカッパルを見て、心で「ガンバレ」ということと、「焼肉の弘」が一杯で「あく今日は焼肉の気分なのにく」と思いつつ「モリタ」で焼き焼きを食べてしまうことと、「ア12」で間宮吉彦の内装を見つめながら「クッククテ、フープ」が無くなったことを思い出すことと、今もなおこのエリアに「DD」があることと、「クラブ・モダン」があったことと、エディと呼ばれる男が祇園安井のパンクなライヴハウスのブッキングマネージャーをクビになってから始めた服屋「片山洋品店」がここにあることと、王将のソーハンと比べたらあかんと思うが、世の中で焼飯って決してバカにしたあかん食べ物やと思いきり知らされた中華料理屋のあとに「エビスヤテイラー」がそのまんまのハコでブティックをしていることと、出前をしてくれるピザ屋で京都が一番美味いと俺が思っている店があることと、「めなみ」と「京都ネーゼ」があることと、決して無縁ではないと思う。